

佐渡トキの田んぼを守る会（新潟県佐渡市）

トキが暮らしやすい、豊かな生きものを育む田んぼの環境づくりを行うため環境保全型農業に取り組む

地域では環境保全型農業が普及するとともに、市が設立した認証制度を活用して付加価値が向上し米のブランド化が進む

【農業者の組織する団体等の概要】

- ・ 構成員 農業者28名

【H27年度の取組】

- ・ 対象作物 水稻
- ・ 対象活動 江の設置、有機農業、冬期湛水管理
- ・ 取組面積 69ha

地域の特徴と取組の背景



国中平野

- ・ 佐渡市は、新潟県の西部沖合の海上に位置する周囲262.7km・総面積約855km²の佐渡島全域を市域としている
- ・ 佐渡市の中央に位置する国中平野は島内の穀倉地帯であり、ほぼ全域が水田として利用されている
- ・ 佐渡市では、平成16年より「環境の島・エコアイランド」に向けた取組を行い、朱鷺が舞う佐渡を目指した餌場の確保と共に佐渡産農林水産物のイメージアップを図る
- ・ また、平成20年から「朱鷺と暮らす郷づくり証制度」を設けて、環境にやさしい農業の推進と佐渡米のブランド化に取り組む
- ・ 佐渡トキの田んぼを守る会は、トキが暮らせる自然の生命豊かな水田を守り育てるため、平成13年に農業者7名で設立し、取組が認められて現在は構成員28名で活動

環境保全型農業の実施状況

【環境直接支払の対象活動】



江の設置

栽培期間中湛水状態を保つことができる溝（江）を設置し、生きものの生息環境を確保する取組

- ・ トキが暮らしやすい田んぼを目指し、江の設置（38ha）に取り組むほか、有機農業や冬期湛水管理に取り組む

【環境直接支払の推進活動】



消費者や学生との生き物調査

- ・ 年2回の生き物調査を通じて、取組の効果を確認することで、環境にやさしい農業に対する農業者自身の意識向上が図られている
- ・ また、消費者交流や小学生の総合学習と連携することで、生きものを育む佐渡の田んぼや環境にやさしい農業への取組を広くPRしている

取組の効果及び今後の展開



「朱鷺と暮らす郷」米



水田に飛来したトキ

- ・ 佐渡市において環境保全型農業の普及が進み、コシヒカリを栽培するほぼ全ての農家が化学肥料・農薬の使用を県の地域慣行栽培基準の5割以上削減を達成
- ・ 生き物調査や江の設置、タンパク質含有量等を要件としている「朱鷺と暮らす郷」米は付加価値が認められて佐渡産コシヒカリと比べ1割程度高値で取引されている



佐渡トキの田んぼを守る会のメンバー

- ・ 今後は、「朱鷺と暮らす郷」米が、環境にやさしい農業で栽培された「消費者にわかりやすい基準」の米として、広く認知されるよう取組を継続していく

「南魚沼産コシヒカリ」ブランド力のさらなる向上に向け、 環境保全型農業を付加価値として生かす取組

ブランド化

ゆうき米振興部会（新潟県南魚沼市）

「南魚沼産コシヒカリ」のブランド力に、有機栽培等を付加価値として商品開発し、独自の販路を開拓
差別化商品として高単価で販売することで「南魚沼産コシヒカリ」のブランド力向上に寄与

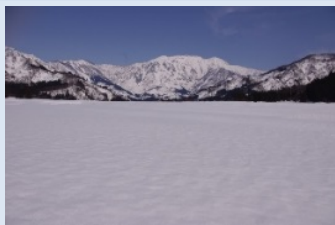
【農業者の組織する団体等の概要】

・ 構成員 農業者12名

【H27年度の取組】

- ・ 対象作物 水稻
- ・ 対象活動 有機農業
- ・ 取組面積 23ha

地域の特徴と取組の背景



霊峰八海山と麓のほ場の雪景色

- ・ 南魚沼市は、新潟県中越地方魚沼地域の南部に位置し、霊峰八海山の麓に広がる農地で稲作を主体として営農している地域
- ・ 魚沼地域では、平成19年に「魚沼米憲章」が制定され、「高品質・良食味米」の維持向上、「安心・安全の米づくり」を推進し、全域で減農薬減化学肥料栽培に取り組む
- ・ 「南魚沼産コシヒカリ」は南魚沼市と湯沢町で生産され、地形や気象条件により食味が評判
- ・ JA魚沼みなみでは、水稻で有機栽培や特別栽培に取り組む農業者がJA魚沼みなみ有機米部会（218名374ha）を設立し、「南魚沼産コシヒカリ」を「新潟南魚沼産コシヒカリ有機栽培米」等のブランドで差別化して販売
- ・ ゆうき米振興部会については、JA魚沼みなみ有機米部会のうち環境直接支払に取り組む農業者12名で設立

環境保全型農業の実施状況

【環境直接支払の対象活動】

- ・ 水稻において有機農業の取組（23ha）を実施
- ・ 除草にあたっては、紙マルチの設置のほか、アイガモ、機械除草を活用
- ・ 構成員全員がエコファーマー、有機JAS認証を取得



紙マルチの設置



アイガモによる除草

【環境直接支払の推進活動】

- ・ 構成員は年1回JA魚沼みなみ有機米部会の研修会に参加するとともに、生育調査や現地巡回等を行い、栽培技術の向上に努めている



現地巡回調査の様子

取組の効果及び今後の展開

- ・ 有機栽培米については「新潟南魚沼産コシヒカリ有機栽培米」、特別栽培米については「雪穂」のブランド名で販売
- ・ 有機栽培米は慣行栽培との差別化商品として独自の販路が確立できており、全量を年間契約販売している
- ・ また、南魚沼という良質米産地における有機JAS認証米であることが消費者から高く評価されており、「南魚沼産コシヒカリ」の慣行栽培に比べ、1.8倍の価格で販売
- ・ 構成員の農業経営の安定化、地域農業の活性化のために消費者との交流を十分に行いつつ「南魚沼産コシヒカリ」のブランド力向上を図る



新潟南魚沼産
コシヒカリ
有機栽培米

いのちが支え合う有機農業の実践と担い手の育成・指導

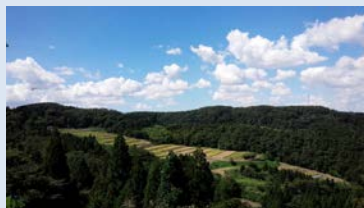
どゆうの

有限会社土遊野（富山県富山市）

自家製の鶏糞堆肥を活用するなど地域の資源を循環させながら有機農業に取り組む

自然体験や研修の場を提供し、子供たちが遊びながら学べる機会を創出

地域の特徴と取組の背景



土集落
の風景

ど

- ・（有）土遊野のある富山市土集落は、富山市の南部に位置し、飛騨高山から続く丘陵地に囲まれた中山間地の里山で、人が離れ過疎化が進み「限界集落」となっている
- ・ 東京から移住した非農家の夫婦が「里山は今後の日本にとって大切な場所であり後世に残したい」、「里山を知らない世代を対象に里山の価値を現場で伝えたい」という思いを活動の信念として、（有）土遊野（平成6年）を設立し、有機農業に取り組む
- ・ 飼料用米等を栽培し、平飼い養鶏の飼料としている。また、平飼い養鶏から出た鶏糞ともみがらから堆肥を作り施用しており、経営内での循環型農業を実践
- ・ 研修生の受け入れ、田植え体験等の開催、棚田の維持・保全など地域の農業や環境を守る活動に取り組む

環境保全型農業の実施状況

【環境直接支払の対象活動】

- ・ 水稲、そば、小麦等において有機農業に取り組む（有機JAS認定を取得）
- ・ 自社製の鶏糞堆肥を施用。また水稲ではアイガモ農法も実践



平飼している養鶏



アイガモによる除草

【環境直接支払の推進活動】

- ・ 検討会を開催し、環境直接支払の取組農業者等とともに、生物多様性保全の効果や有機農業の取組状況について意見交換
- ・ 閉校になった小学校校舎を活用し、都市住民の農業体験の場を提供。自然ふれあい体験、そばまつり等様々な食育活動を実施



都市住民との交流活動

【農業者の組織する団体等の概要】

- ・ 構成員 8名

【H27年度の取組】

- ・ 対象作物 水稲、そば、小麦、野菜
- ・ 対象活動 有機農業
- ・ 取組面積 17ha

取組の効果及び今後の展開



子供たちの田植え体験



研修生の農作業の様子

- ・ 受け入れた研修生の多くは新規就農して各地域で有機農業に取り組んでおり、担い手の育成につながっている
- ・ 農場での様々な自然体験を通して、次世代を担う子供たちが命や食べ物、エネルギーについて遊びながら学んでいける環境教育を提供
- ・ 農業高校生の体験研修やファームステイ等で、多くの若者を受け入れており、（有）土遊野に訪れる若者が中山間地の豊かさ、価値を再発見する機会につながっている

新規就農により有機農業が拡大している取組

NPO法人ゆうきハートネット（岐阜県白川町）

有機農業に取り組む農業者でNPO法人を設立し、消費者との交流イベント等を開催して有機農業の取組をPR
町と連携して新規就農者の受け入れを支援することで有機農業に取り組む農業者が増加

【農業者の組織する団体等の概要】

- ・ 構成員 農業者33名（うち取組農業者 8名）

【H27年度の取組】

- ・ 対象作物 水稻、豆類、雑穀、野菜類
- ・ 対象活動 有機農業
- ・ 取組面積 3.7ha

地域の特徴と取組の背景



白川町黒川地区



構成員の生産物

- ・ 白川町は海拔150mから1,233mと高低差が激しく、87%を山林が占め、平場地域、急傾斜地域を含め約3%の農地で水稻、茶、大豆、夏秋トマト等の栽培が行われている
- ・ 近年、農業従事者の高齢化による担い手不足により、遊休農地が増加
- ・ 平成10年には、有機農業に取り組む農業者が、有機農業の生産技術の向上や農産物の販売促進、新規就農者の参入促進等を支援する任意組織を設立
- ・ 平成23年には、より幅広く活動を行うために任意組織を法人化し、NPO法人ゆうきハートネットを設立

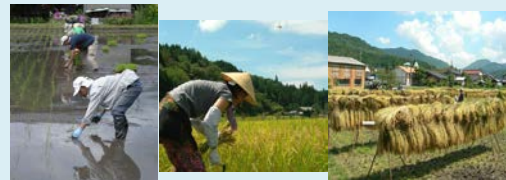
環境保全型農業の実施状況

【環境直接支払の対象活動】



- ・ 構成員が、水稻、大豆等での有機農業に取り組む

【環境直接支払の推進活動】



消費者との交流 田植え(左)、稲刈り(中央、右)

- ・ 田植え、稲刈り、はざ掛け体験等の交流イベントを開催し、消費者へ有機農業の取組をPR
- 【その他の活動】
- ・ 有機農業研修施設「くわ山結びの家」を活用して研修生の受け入れ、町と連携して新規就農者に対する空き家や農地の紹介等により定着を支援
- ・ 構成員がオアシス21オーガニックファーマーズ朝市などに出席して販路拡大できるように支援

取組の効果及び今後の展開



有機農業研修施設
「くわ山結びの家」



有機農業の栽培技術を学ぶ研修を開催

- ・ 任意組織の設立当初は10名約7haだったが、新規就農者を支援してきたことにより構成員が増加し、33名約22ha（平成27年12月現在）で有機農業が行われている
- ・ 新規就農者はIターンで30代の家族が多く、町内及び近隣町村内への定住者の約7割にあたり、消防団や地域伝統芸能にも取り組むなど地域の活性化に貢献
- ・ 今後は、経営面積の小さい新規就農者（30a～50a）の経営規模拡大、栽培技術の向上、原木椎茸の栽培技術指導など経営面での支援を充実していく予定

米のブランド化を進めている取組

おろしゆめ 尾呂志夢アグリ (三重県御浜町)

水田の環境保全と地域の活性化を目的に化学肥料・農薬を低減した米作りに取り組み、農業環境指標(生き物調査、炭素貯留効果)を活用し、「尾呂志夢アグリ米」のブランド化に取り組む

【農業者の組織する団体等の概要】

- ・ 構成員 農業者10名(全員がエコファーマー)

【H27年度の取組】

- ・ 対象作物 水稻
- ・ 対象活動 カバークロップの作付け
- ・ 取組面積 1.3ha

地域の特徴と取組の背景



尾呂志地区の水田(左)
「尾呂志 夢アグリ米」のパンフ(右)



- ・ 尾呂志地区は三重県南部の御浜町の中山間部に位置し、山から吹き降ろす風により昼夜の気温差が大きく、水資源に恵まれていることから、近隣地域から良質の米ができる「米どころ」として認知されている
- ・ しかし、農業従事者の高齢化が進んでおり、離農者が増加していること、小区画の水田が多いことから、耕作放棄地が増加
- ・ 地域の水稲担い手農家が「伝統的集落を守る」、「地域の活性化を図る」ことを目的に平成19年にグループを設立
- ・ この地区で生産した米のおいしさ、環境全型農業の取組を消費者に広く周知し、「尾呂志 夢アグリ米」のブランド化により、地域の活性化に繋げていく取組を開始

環境保全型農業の実施状況

【環境直接支払の対象活動】

- ・ 構成員全員が化学肥料・農薬の使用を低減して水稻を栽培(約21ha)、うち2名が1.3haでカバークロップ(レンゲ)の作付けに取り組む

【環境直接支払の推進活動】



小中学校の学校田での生き物調査による食育活動



土壌分析結果を踏まえた堆肥散布

- ・ 地元の小中学校の学校田の指導を行い、学校田で生き物調査を行うなど食育活動に貢献
- ・ 毎年10月に、各農家3～5カ所の土壌診断を実施した上で、堆肥等の施用による土づくりを実施。土壌診断にあたっては、県の協力を得ながら土づくり研修会を開催した上で実施

【その他の活動】

- ・ 「農業生物多様性指標」及び「炭素貯留効果指標」の農業環境指標を調査し、商品にその結果を表示して販売することで環境保全型農業のPRを実施

取組の効果及び今後の展開

【農業環境指標を活用した消費者へのPR】



平成27年度の調査結果
生き物調査 Aランク
・ 計8箇所の水田で実施し全てAランク
・ 生物多様性が高く、取組を継続するのが望ましいという評価
炭素貯留効果 ランク3
・ 堆肥を2t/10a施用したことで、50年分のスギ68本が1年間に吸収する二酸化炭素と同程度の炭素を土壌に貯留

生きもの調査、炭素貯留効果の結果を商品に貼付

- ・ 農業環境指標のラベルを商品に貼り付けてイベントで対面販売を行うことで、環境保全型農業の取組の重要性を消費者に訴求
- ・ ラベルを貼り付けるだけでは環境保全効果を消費者に理解してもらうことが困難なことから、丁寧な情報発信が必要

【地元企業のCSR事業との連携】

- ・ 地元企業のCSR(企業の社会的責任)事業と連携し、「田んぼからおちょこまで」を合言葉に、協働して酒造好適米品種「神の穂」を栽培



協働活動での田植え(左)
純米大吟醸「風」(右)

- ・ 収穫した米は県内酒造メーカーにより「純米大吟醸 風(おろし)」として販売され、「尾呂志 夢アグリ米」のブランド化に貢献

おとわ

音羽米を育てる研究会（愛知県豊川市）

環境にやさしい米づくりを目標に掲げて特別栽培米「音羽米」をブランド化して販売
消費者グループを組織して交流することで環境にやさしい農業の取組をPR

【農業者の組織する団体等の概要】

・ 構成員 107名（取組農業者 17名）

【H27年度の取組】

- ・ 対象作物 水稻
- ・ 対象活動 堆肥の施用、有機農業
- ・ 取組面積 22ha

地域の特徴と取組の背景



穂肥講習会



耐病性品種
コシヒカリ愛知SBL

- ・ 音羽地区は豊川市の北西部に位置し、音羽川上流部の中山間地にあり、水稻栽培が盛ん
- ・ 平成元年に生産者2名が計63aで特別栽培米の取組を開始。平成4年に栽培希望者が39名となったことから「音羽米を育てる研究会」を設立
- ・ 現在では構成員が107名（全員がエコファーマー）に拡大し、構成員の栽培面積は音羽地区の水田面積の約半分（65ha）に及ぶ
- ・ 栽培講習会等により無化学肥料・無農薬栽培を目標に栽培技術の向上に努めている

環境保全型農業の実施状況

【環境直接支払の対象活動】



堆肥の散布



- ・ 堆肥の施用（21.5ha）と有機農業（0.9ha）に取り組む
- ・ 研究会で自主基準を設け本田では肥料等は有機JAS認定資材のみ使用
- ・ 耐病性品種等により、農薬成分の使用回数は地域の慣行から約7割減

【環境直接支払の推進活動】



稲刈り体験（写真 左・中央）



餅つき大会（右）

- ・ 消費者グループ「音羽米を食べる連絡会（会員約2,000名）」を組織して、毎年交流会等により環境保全型農業の取組をPR
- ・ JAや地元取引先37業者の「音羽米ネットワーク」と連携し、消費拡大・地産地消に取り組む

取組の効果及び今後の展開



特別栽培米「音羽米」



音羽米の加工商品販売



- ・ 音羽米の収量は地域の慣行と比べやや少ないが、価格面で有利に販売でき生産者の所得安定に寄与
- ・ 音羽米の消費拡大と地産地消を念頭に地元加工業者と連携し加工商品の取組を始めている



次年度作に向けた講習会



音羽米シンボルマーク

- ・ 今後も「無化学肥料・無農薬栽培」を目指し実証圃による調査・実証、栽培技術講習会などにより栽培技術の向上に取り組む
- ・ 消費者グループと連携して地域の環境保全、安全安心な地産地消のシステムを構築していく

大規模生産による有利販売を実現

JA北びわこ「生産基準米」生産者グループ（滋賀県長浜市）

滋賀県環境こだわり農産物認証の基準に加え、JA独自の栽培基準等を設けたコシヒカリを「プレミアム米」としてブランド化

大規模生産によって大手量販店との契約販売を実現することで農業経営の安定に貢献

【農業者の組織する団体等の概要】

- ・ 構成員 農業者1,008名

【H27年度の取組】

- ・ 対象作物 水稻等
- ・ 対象活動 「緩効性肥料の利用及び長期中干し」等
- ・ 取組面積 1,572ha

地域の特徴と取組の背景



伊吹山とレンゲ

- ・ 長浜市は、滋賀県の東北部に位置し、大規模農家や集落営農等の集団的な営農により、水稻を中心に麦、大豆等の土地利用型作物の栽培が盛んな地域
- ・ JA北びわこは、環境にやさしく安全・安心な米づくりを目的として、栽培者を募り、平成17年に「北びわこ「生産基準米」生産者グループ」を設立。現在の構成員は1,008名で2,352haに取り組む
- ・ 「滋賀県環境こだわり農産物認証」の基準に加え、JA独自の栽培基準を満たした米を「プレミアム米」としてブランド化を進めており、528名が1,115haで生産

環境保全型農業の実施状況

【環境直接支払の対象活動】

- ・ 地域特認取組である「緩効性肥料の利用及び長期中干し」(1,214ha)や「総合的病虫害・雑草管理(IPM)と組み合わせた畦畔の人手除草及び長期中干し」(216ha)等に取り組む



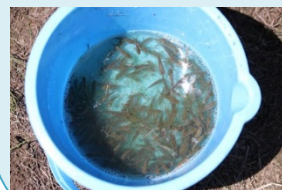
畦畔除草



中干しのための溝切り

【環境直接支払の推進活動】

- ・ 毎年、栽培技術研修を行うとともに、小学生等との農業体験、琵琶湖の固有種であるニゴロブナの稚魚放流など環境保全型農業への理解を深める活動を展開



ニゴロブナの稚魚



出前授業

取組の効果及び今後の展開

- ・ 「プレミアム米」を地域で一体となって取り組むことで、大きなロットで供給できる体制が確立され、大手量販店との契約販売を実現
- ・ 大手量販店は、「プレミアム米」を環境に配慮した独自の農産物ブランドとして販売。販売数量は販売を開始した平成18年に比べて平成27年には約2.5倍に増加
- ・ 「プレミアム米」は、慣行栽培に比べ60kgあたり1,500円程度高く取引され、農業者の経営の安定化に寄与



店頭販売



稚魚の放流

- ・ 今後、実需者や消費者ニーズを把握し生産に迅速に反映する仕組みを維持し、地域全体の取組とすることで、さらなる「プレミアム米」の生産拡大を図っていく

JAグリーン近江能登川環境こだわり米部会

くしみでさいけちょう
(うち栗見出在家町地区における取組) (滋賀県東近江市)

豊かな生き物を育む水田環境の復活に向けて、自然環境の保全に配慮した米づくりによる「魚のゆりかご水田」活動に取り組むとともに、米の付加価値向上と地域活性化に取り組む

【農業者の組織する団体等の概要】

- ・ 構成員 196名(農業者186名、6法人、4営農組合)

【H27年度の取組】

- ・ 対象作物 水稻
- ・ 対象活動 IPM※と組み合わせた畦畔の手除草及び
長期中干し他5取組
- ・ 取組面積 244ha

※総合的病害虫・雑草管理

地域の特徴と取組の背景

- ・ 東近江市は、滋賀県の南東部に位置し、水稻を中心に園芸作物や畜産等が営まれており、県内でも特に水稻の環境保全型農業が盛んな地域
- ・ 能登川地域では、JAグリーン近江能登川環境こだわり米部会が環境保全に配慮した米づくりに取り組む
- ・ そのうち、栗見出在家地区には約60haの水田があり、7本ある排水路を利用し、魚が田んぼに遡上できるよう、堰板で階段状に魚道をつくり、田んぼで産卵・孵化し、大きく育て再び琵琶湖に帰っていく、まさに「魚のゆりかご」となる取組が行われている
- ・ また、地区では、「魚のゆりかご水田」の一部はオーナー制となっており、地域の子供たちやオーナーが参加して、田植えや稲刈りが行われている



遡上するニゴロブナ



子供たちやオーナーが参加した収穫

環境保全型農業の実施状況

【環境直接支払の対象活動】

- ・ 「IPMと組み合わせた畦畔の手除草及び長期中干し」(110ha)や「緩効性肥料及び長期中干し」(64ha)を中心に合計244haに取り組む
- ・ 栗見出在家地区では、「魚のゆりかご水田」づくりの一つとして、平成24年度から地域特認取組「希少魚種等保全水田の設置」(24ha)に取り組み、堰板の操作やほ場の水管理等を行い、魚が遡上できる環境を整備



中干しのための溝切り



魚が遡上できる排水溝
(堰板を階段状に設置し、田んぼと同じ水位を保つ)

【環境直接支払の推進活動】

- ・ 部会としては、毎年3月に環境こだわり米の栽培研修を行うとともに、構成員に栽培パンフレットを配布し、栽培技術の向上を図っている

取組の効果及び今後の展開

- ・ 「魚のゆりかご水田」の取組により、希少魚種であるニゴロブナやナマズ等の遡上が多く見られるようになった
- ・ 栗見出在家地区では、収穫されたお米は「魚のゆりかご水田米」として、大型量販店と販売契約を行い、独自のマークを付けて付加価値向上を図っている
- ・ 6月には生き物学習会等を地区総出で行うことで環境や農業に対する地区住民の意識が高まってきている。また、地元小学校や大学等も参加し、活動の輪が広がり、地域の活性化につながっている



生きもの学習会 「魚のゆりかご水田米」マーク

- ・ 今後も本取組により、「魚のゆりかご水田米」のPRと取組拡大を目指すとともに、希少魚種等の保全や地域の活性化を図るため、引き続き、消費者等との交流に取り組む